

科目名	障がいの事例に応じた授業プラン－肢体不自由・重度重複編 (S)				B
	サブタイトル	自立活動の方程式とは			
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	西郷建彦				
担当教員の実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。				
オフィスアワー	非常勤講師のため、UHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	講義 演習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	オンライン授業				
資格等 関連科目					
科目コード	B338S				
科目区分	環境・社会と人間				
使用教材	教科書	・『新しいうんどうの理論と実際－自立活動の方程式－』、西郷建彦（著）、「ジダイ社」、2025年 出版予定 (出版されない場合はテキストとして資料を準備する。)			
	参考書等	・各自が持っている自立活動に関する教科書			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、障害のある子どもたちの集団及び個別の指導プログラムの作成の仕方を再度確認する。自立活動の3つの方向性（「移動」、「操作」、「言語」）に関する「基礎の指導プログラム」と「課題の指導プログラム」の作成の演習を行う。				
キーワード	「移動」／「操作」／「言語」／「基礎の指導プログラム」／「課題の指導プログラム」				
テキストの内容 及びアドバイス	本書は、「新しいうんどう」の理論と実際について書かれている。3つの方向性としての「移動」、「操作」、「言語」から、それぞれの「基礎の個別指導プログラム」、「課題の個別指導プログラム」の作成についての内容が含まれている。 テキストから「新しいうんどう」の全体像を再度確認し、その中で、何を選んだら良いかを意識して、それぞれの指導プログラムを作成してほしい。				
一般目標 (GIO)	自立活動の指導が自信をもって行えるために、子どもたちに応じた指導プログラムのあり方と作成の手順を学び、どんな障害のある子どもたちにも、自立活動における指導プログラムの作成ができるようにする。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	①自立活動における「基礎の個別指導プログラム」の意義を説明できる。 ②自立活動における「課題の個別指導プログラム」の意義を説明できる。 ③自立活動における集団及び個別指導プログラムの作成の仕方を説明できる。 ④子どもの障害の状態にあった「移動」に関する個別指導プログラムを作成しようとする態度をもっている。 ⑤子どもの障害の状態にあった「操作」に関する個別指導プログラムを作成しようとする態度をもっている。 ⑥子どもの障害の状態にあった「言語」に関する個別指導プログラムを作成しようとする態度をもっている。 ⑦子どもの障害の状態にあった「移動」に関する個別指導プログラムを作成できる。 ⑧子どもの障害の状態にあった「操作」に関する個別指導プログラムを作成できる。 ⑨子どもの障害の状態にあった「言語」に関する個別指導プログラムを作成できる。 ⑩神経生理学的な配慮を、指導プログラムに加えることができる。				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。 1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育 ▪ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感性、創造力、表現力、自己教育力、生涯学習意欲、豊かな人間性			

	<ul style="list-style-type: none"> 社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質 <p>2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得 社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力 				
	<p style="text-align: center;">人間科学部</p> <p>人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。</p>				
	<p style="text-align: center;">心身健康科学科に関連する項目</p>				
カリキュラムポリシーとの関連	<p>人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る 				
	<p style="text-align: center;">人間科学部</p> <p>人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る 人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る 様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る 多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う 現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る 				
	<p style="text-align: center;">心身健康科学科に関連する項目</p>				
評価方法・基準	<p>評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。</p> <p>評価は「最終レポート」(100%)で行い、評価基準に則り60点以上を合格とする。</p> <p>最終レポート内の「記述問題」については、以下の項目に従って評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定文字数に従っているか。過不足がないか。 誤字、脱字がないか。 出題内容の問い、趣旨に答えているか。 文章が論理的か 専門用語を適切、正確に使用しているか。 常体(『である』調)で記述されているか。 他人のレポートをコピー&ペーストしていないか。 				
課題に対するフィードバックの方法	<p>講義に対する質問や「基礎・課題の個別指導プログラム」の作成及び発表の際のディスカッションにおいて、教員が受講者の課題に対する理解を確認しコメントを伝える。</p>				
スクーリング履修における授業準備(予習・復習)の具体的な内容及びそれに必要な時間	<p>【予習】 教科書を精読する。また、疑問点を整理しておく。(1コマにつき2時間程度)</p> <p>【復習】 教科書を見ながら、実際に指導プログラムを作成する。(1コマにつき2時間程度)</p>				
スクーリング履修での講義内容	<p style="text-align: center;">授業計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">時限</td> <td style="width: 40%;">学習内容</td> <td style="width: 30%;">キーワード(重要語句)</td> <td style="width: 20%;">担当教員</td> </tr> </table>	時限	学習内容	キーワード(重要語句)	担当教員
時限	学習内容	キーワード(重要語句)	担当教員		

1時限	集団及び個別指導プログラムの作成の手順	集団及び個別の指導プログラムの作成の仕方を確認する。 新しいうんどうの全体像 / 「基礎の集団指導プログラム」 / 「基礎の個別課題の指導プログラム」 / 「課題の個別指導プログラム」	西郷建彦
2時限	集団及び個別指導プログラムの参考例	集団及び個別の指導プログラムの参考例から作成の仕方についての理解を深める。 新しいうんどうの全体像 / 「基礎の集団指導プログラム」 / 「基礎の個別指導プログラム」 / 「課題の個別指導プログラム」	西郷建彦
3時限	個別指導プログラム作成の実際①	提示した子どもの実態から「基礎・課題の個別指導プログラム」を作成する。 「基礎の個別指導プログラム」 / 「課題の個別指導プログラム」 / 「移動」 / 「操作」 / 「言語」	西郷建彦
4時限	個別指導プログラムの発表①	作成した「基礎・課題の個別指導プログラム」の発表を行う。 「基礎の個別指導プログラム」 / 「課題の個別指導プログラム」 / 「移動」 / 「操作」 / 「言語」	西郷建彦
5時限	個別指導プログラム作成の実際②	現在担当している子どもの実態に合わせて「基礎・課題の個別指導プログラム」を作成する。 「基礎の個別指導プログラム」 / 「課題の個別指導プログラム」 / 「移動」 / 「操作」 / 「言語」	西郷建彦
6時限	個別指導プログラムの発表②	作成した「基礎・課題の個別指導プログラム」の発表を行う。 「基礎の個別指導プログラム」 / 「課題の個別指導プログラム」 / 「移動」 / 「操作」 / 「言語」	西郷建彦
7時限	個別指導プログラムの発表③	作成した「基礎・課題の個別指導プログラム」の発表を行う。 「基礎の個別指導プログラム」 / 「課題の個別指導プログラム」 / 「移動」 / 「操作」 / 「言語」	西郷建彦
8時限	指導プログラムにおける配慮について	指導プログラムを実施するにあたっての配慮することを学ぶ。 反射・反応 / 姿勢 / 環境 / 連携	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	今期より新しく開講した科目となります。このため、評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。		
方略	重要となる学習項目や作成手順を理解し習得する。そのためには、実際に指導プログラムを作成し、受講生どうしのディスカッションやを通じて学ぶようにする。理解しにくい箇所については、質疑応答を丁寧に行い、解決していくようにする。		
連絡事項	<p>選択する学習内容やそれらの組み合わせ・順番は、担当している教師の観察上の根拠によるもので良い。効果に疑問がある場合は、中間評価の時に、それぞれを検討してほしい。その中で、また観察する力も増すはずである。指導プログラムを繰り返し作成することで、教育的アプローチとは何かを問いかけるようにすること。</p> <p>2025年前期より開講</p>		